

伝説と歴史の舞台を歩く

乙女ヶ池

高島市
DATA●歩行距離 約4km
●歩行時間 約1時間30分

水景整備された乙女ヶ池。昭和初期は淡水真珠の養殖場として利用され、近年は釣りを楽しむ人でにぎわう(※太鼓橋は秋以降に改修工事の予定)。

藤原仲麻呂が最期を迎えた、勝野の鬼江

万葉の時代、和歌に「香取の海」と詠われたのが、高島市勝野にある乙女ヶ池の一带である。当時、琵琶湖は山麓に向かって湾入し、大きな入江をつくっていた。それがやがて内湖となり、現在は「乙女ヶ池」と呼ばれている。

ここは古代史の物語を彩る重要な舞台でもあった。池の西に位置する山は三尾山と呼ばれ、壬申の乱(672年)の戦場となったところ。そして、764年の恵美押勝の乱では、藤原仲麻呂の一族郎党が乙女ヶ池付近勝野の鬼江で処刑された。

名門貴族・藤原家の出である藤原仲麻呂は、聖武天皇崩御の後、叔母である光明皇后の後ろ盾で次第に権力を掌中に収め、太政大臣まで

池畔にある万葉歌碑には「大船の 香取の海に 碇(いかり)おろし 如何なる人か 物思はざらむ」(巻11-2436、作者未詳)と刻まれている。西近江路は古くから大和と若狭を結ぶ重要な交通路で、万葉人が旅の行き帰りにこの地で詠んだ歌が幾首か残されている。歌碑をめぐる散策も楽しめる。



乙女ヶ池の万葉歌碑

のほりつめる。しかし、光明皇后が亡くなり、後ろ盾を失うと反対勢力に追い詰められ、ついに挙兵。これが恵美押勝の乱である。仲麻呂は都を追われ、越前へ逃れようとするが退路を断たれ、湖西の三尾崎で捕えられる。ここが仲麻呂の最期の地となった。

として利用し、織田信長の甥・信澄が大溝城を築城(設計は明智光秀)。石積みのあるこの城跡とあわせて、満々と水を湛える乙女ヶ池の畔をのんびり散策するのもいいだろう。緑豊かな自然の風景を映す水面から、遠い歴史の息吹が伝わってくるはずだ。

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意図があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分であいてみてはいかがでしょうか。



モデルコース
 近江高島駅 8分 大溝城跡 7分 乙女ヶ池・万葉歌碑・太鼓橋 8分 旧西近江路・万葉歌碑 10分 釣桟橋 15分 大溝漁港・万葉歌碑 5分 近江高島駅
 ※移動時間はあくまでも目安です。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!

<http://www.keibun.co.jp>

※藤原仲麻呂は淳仁朝以降(758年~)に藤原恵美押勝に改名。